

熊本地震対応調査・研究グループキックオフ会議が熊本で開催されました

平成 29 年 2 月 27 日、熊本大学理学部に於いて熊本地震対応調査・研究グループキックオフ会議を開催しました。

本会議は、地下水学会誌第 58 巻第 3 号において募集した熊本地震に対応する調査・研究グループの活動を本格化させるため、翌日 2 月 28 日の現地視察とあわせて開催されたものです。昨年 10 月の長崎における秋季大会の際に、最初の会議を開き、29 名の調査・研究グループ参加希望者が参集しました。「地下水位」・「地下水質」・「地下水モデル」・「地下水温」・「地下水利用・保全」の 5 つのサブグループに分かれ、それぞれ活動を続けながら、定期的にグループ全体での会議を開催し、サブグループの活動の中間報告を行い、相互に情報共有・連携を行いながらグループ全体としての活動を進めていく方針です。

今回の会議では、これまでの中間報告と、グループの活動方針の確認を行うことを目的として、下記の内容が報告されました。会議には、グループメンバーのうちの 22 名とオブザーバー参加者の 7 名を加えた 29 名が参加し、活発な質疑応答が行われました。

| | タイトル | 発表者 |
|---|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1 | 熊本地震 WG の研究活動計画の検討および熊大側のサポート体制について | 嶋田 純 (熊大)・中川 啓 (長大)・細野高啓 (熊大) |
| 2 | 熊本地震に伴う地下水位の変化の特徴 | 利部 慎 (長大) |
| 3 | 熊本地震後の地下水位変動メカニズム | 細野高啓 (熊大) |
| 4 | 熊本地震による河川水位の変化 | 一柳錦平 (熊大)・安藤昭太郎 (熊大) |
| 5 | 地下水温プロファイルの変化と特徴 | 宮越昭暢 (産総研)・細野高啓 (熊大)・利部 慎 (長大) |
| 6 | 熊本地震による地下水流動への影響に関するモデリング検討 | 田原康博 (地圏環境テクノロジー) |
| 7 | 地震活動に伴う活断層プロファイルの実態および観測井戸基準再測量 | 鈴木弘明 (日本工営) |

翌 28 日には、現地視察を行い、水前寺成就園の湧水復活状況や、地震に伴い新たに湧出した広木公園の湧水、湧出が復活した亀井神社湧水などの状況を確認するとともに、肥後銀行の防災井戸の設置状況やサントリーや地下水財団による水張水田の地震被害の修復状況などを確認しました。

今後は、本キックオフ会議の開催を契機に、調査・研究グループによる研究が進展し、熊本地域における地下水・水文環境に関する情報を収集・共有することで、今後の防災・減災に役立つ知見・情報を一般化して地域住民や国民に還元するとともに、本格的な研究に繋げることが期待されます。



一本木水源湧水での説明をする熊大嶋田名誉教授（WG長）



広木公園に湧出した湧水

（調査・研究委員会 中川 啓）